

第 105 号

Super Highway



J R 東労組ホームページ

発行日

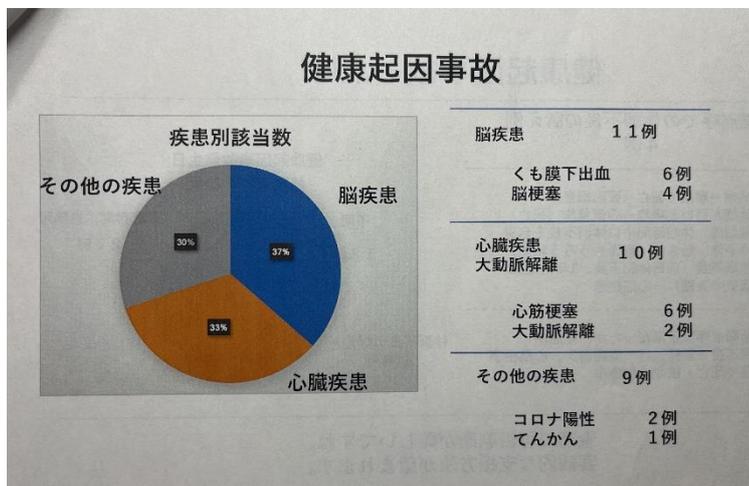
2024.12. 1

J R 東労組バス関東本部

第 3 回バス安全・政策アドバイザー会議資料から③

健康起因事故を減らす

健康起因事故発症のボリュームゾーンは、50 歳～60 歳代のドライバーです



疾病の発症と事故とのタイミング

I パターン：31 例

体調不良→意識消失→（制御不能）



II パターン：3 例（事故回避）

体調不良→車両停車→意識消失

III パターン：6 例（事故回避）

車両停車中に体調急変

体調不良を感じたら、まずはバスを安全な場所に停車させる！！

健康起因事故と点呼

\* 始業点での体調不良の訴え例 4 例

- ・頭痛→事故で死亡（死因調査中）
- ・体調が悪いと申告→心臓発作（死亡）
- ・偏頭痛、休憩時間中に体調不良を自覚→冷や汗、吐き気（意識もうろう状態）
- ・体調不良（前日体調不良、1 年前心臓の病気で入院）→心筋梗塞
- ・始業点呼は正常だったが、休憩中に体調不良→業務遂行→意識消失、心筋梗塞病院で死亡、抗がん治療中

健康起因事故発生日 始業点呼の結果

正常判定・乗務可…27 例 63%

体調不良の訴え \* 乗務可…4 例 9%

不明…12 例 28%

乗務の可否判断が難しいですね。

客観的な支援方法が望まれます。

J R バス関東で働く仲間を一つに！